

オフショア活用前 チェックリスト

会社選びの前に、失敗しやすい論点を整理する

この資料は、初めてオフショア開発・ラボ型開発・保守移管を検討する企業向けに、「何を任せるべきか」「どこから始めるべきか」「自社側に何が必要か」を整理するためのチェックシートです。

株式会社アイディーエス | スマラボ

はじめに：オフショア開発は「会社選び」から始めると失敗しやすい

オフショア開発を検討するとき、多くの企業は最初に「どの国がよいか」「どの会社が安いか」「日本語が通じるか」を比較します。もちろん、これらは重要な要素です。

しかし、実際の成否を分けるのは、委託先の比較よりも前に、自社側の目的・範囲・判断体制・コミュニケーション設計が整理されているかどうかです。

特に、保守運用や継続開発を外部に任せる場合、単に開発者を確保するだけではうまくいきません。仕様書がない、担当者しか分からない、既存ベンダーに依存している、改修のたびに見積もりがぶれる。こうした状態のまま外部に移管すると、コストは下がるどころか、手戻りや品質問題でむしろ高くつくことがあります。

このチェックリストでは、オフショア活用前に確認すべき論点を6つに分けて整理します。各項目を確認し、自社が「すぐ始められる状態」なのか、「小さく試すべき状態」なのか、「まず準備が必要な状態」なのかを判断してください。

この資料で確認できること

- オフショア開発に任せる範囲が明確か
- 日本側で判断・レビューできる体制があるか
- 保守移管や継続開発に必要な情報が可視化されているか
- 小さく始めるための候補領域があるか
- 会社選びの前に整理すべきポイントが抜けていないか

使い方

各チェック項目について、以下の基準で点数を付けてください。最後に合計点を確認し、推奨アクションを判断します。

点数	状態
2点	整理されており、すぐに説明できる
1点	一部整理されているが、補足が必要
0点	未整理、または担当者依存で説明が難しい

1. 目的・対象範囲の整理

何を任せたいのかが曖昧なまま会社を比較すると、単価や営業担当者の印象だけで判断しやすくなります。まずは任せると目的と範囲を明確にします。

チェック項目	点数	メモ
新規開発、追加開発、保守運用、テスト、ドキュメント整備のどれを任せたいか明確である	0 / 1 / 2	
対象システム・対象業務・対象機能を説明できる	0 / 1 / 2	
任せたい範囲と、自社で残す範囲を分けられている	0 / 1 / 2	
初期フェーズで小さく試せる候補領域がある	0 / 1 / 2	
成果物ではなく、期待する状態を説明できる	0 / 1 / 2	

2. 既存システム・ドキュメントの状態

保守運用や継続開発を任せると、現在のシステムをどこまで理解できているかが重要です。仕様書の有無だけでなく、実態として使える情報かどうかを確認します。

チェック項目	点数	メモ
システムの全体像を説明できる資料がある	0 / 1 / 2	
主要機能・外部連携・データの流れを説明できる	0 / 1 / 2	
ソースコードの管理場所と更新ルールが明確である	0 / 1 / 2	
仕様書や設計書が最新状態に近い、または差分を把握できている	0 / 1 / 2	
担当者しか知らない運用ルールや例外処理を洗い出せている	0 / 1 / 2	

3. 日本側の判断・レビュー体制

オフショア開発は海外チームだけでは成立しません。日本側で判断し、レビューし、優先順位を決める役割が必要です。

チェック項目	点数	メモ
日本側の責任者・判断者が明確である	0 / 1 / 2	
仕様に関する質問へ一定期間内に回答できる体制がある	0 / 1 / 2	
成果物をレビューできるPM・SE・業務担当者がある	0 / 1 / 2	
優先順位やスコープ変更を判断するルールがある	0 / 1 / 2	
海外チームに丸投げしない運営方針が共有されている	0 / 1 / 2	

4. コミュニケーション設計

「日本語が通じるか」だけでは不十分です。何を、いつ、誰が、どの粒度で確認するかを決めておく必要があります。

チェック項目	点数	メモ
定例会議の頻度と参加者が決まっている	0 / 1 / 2	
チャット・課題管理・ドキュメント共有のツールが決まっている	0 / 1 / 2	
質問・確認・判断のエスカレーションルールがある	0 / 1 / 2	
議事録・仕様確認・決定事項を残す運用がある	0 / 1 / 2	
認識齟齬が起きた場合の修正プロセスを決めている	0 / 1 / 2	

5. 契約形態・始め方

請負型とラボ型は、どちらが優れているという話ではありません。目的と案件特性に合わせて選ぶ必要があります。初めての場合は、小さく始めて確認することが重要です。

チェック項目	点数	メモ
請負型とラボ型の違いを理解している	0 / 1 / 2	
最初に任せる範囲を限定できている	0 / 1 / 2	
1~2か月程度のトライアルや小規模開始を検討できる	0 / 1 / 2	
体制拡大の判断基準を決めている	0 / 1 / 2	
契約前に確認すべき成果物・責任範囲を整理できている	0 / 1 / 2	

6. 品質・セキュリティ・運用

品質は最後に検査するものではなく、開発プロセスの中で作り込むものです。特に保守や継続開発では、レビュー・テスト・権限管理が重要になります。

チェック項目	点数	メモ
コードレビューや設計レビューの実施方針がある	0 / 1 / 2	
テスト観点・受け入れ基準を説明できる	0 / 1 / 2	
本番環境・検証環境・権限管理の方針がある	0 / 1 / 2	
不具合や障害発生時の連絡・対応ルールがある	0 / 1 / 2	
セキュリティ・機密情報の取り扱いルールがある	0 / 1 / 2	

診断結果：自社はどの状態か

各チェック項目の点数を合計してください。満点は60点です。点数は厳しめに付けてください。「担当者に聞けば分かる」は、整理されている状態ではありません。

合計点	状態	推奨アクション
46～60点	開始可能	小規模な範囲からトライアルを開始し、品質・スピード・相性を確認する
26～45点	小さく試すべき	いきなり大きく任せず、可視化・ドキュメント整備・限定改修から始める
0～25点	準備が必要	会社選びの前に、対象範囲・日本側体制・既存情報の整理を優先する

始め方の例

■ コード調査・仕様整理から始める

仕様書が古い、または存在しない場合。AIも活用しながら、ソースコード・画面・データ・外部連携を整理する。

■ 小規模な追加開発から始める

影響範囲が限定された改修を対象に、品質・レビュー・コミュニケーションの相性を見る。

■ テスト・ドキュメント整備から始める

既存システムの理解を深めながら、保守移管に必要な土台を作る。

■ 保守チケットの一部対応から始める

軽微な問い合わせや定型的な改修から対応範囲を広げ、段階的にチーム化する。

やってはいけない進め方

- 単価だけで開発会社を選ぶ
- 営業担当者の日本語力だけで判断する
- 仕様が曖昧なまま丸投げする
- 日本側の判断者・レビュー担当を決めない
- 初回から大きな範囲を任せる
- AIで全部自動化できる前提で進める

次の一步：会社選びの前に、任せ方を整理する

オフショア開発で成果を出すには、どの会社を選ぶかだけでなく、何を、どの順番で、どの体制で任せるかを整理することが重要です。特に、保守運用や継続開発を任せる場合は、既存システムの可視化、日本側の判断体制、レビュー・品質管理の仕組みが欠かせません。スマラボでは、日本側PM・SEとベトナム開発チームが並走しながら、小さく始めて段階的に開発・保守体制を整えることを重視しています。

自社でオフショア開発を活用できるか整理したい方へ

まずは、対象システム・任せたい範囲・日本側の体制を整理するところから始めてください。
スマラボでは、保守移管・継続開発・ラボ型開発の進め方についてご相談を受け付けています。

お問い合わせ前に整理しておくとい情報

- 対象システムの概要
- 現在の保守体制
- 困っていること
- 任せたい範囲
- ドキュメントやソースコードの状態
- 開始したい時期
- 日本側の判断者・窓口

スマラボ | sma-labo.jp